第７１号
令和3年12月20日
編集責任者　田邊　朋之

清里農連通信

発行　清里町農民連盟
清里町羽衣町2番地
TEL　0152-25-3792
FAX　0152-25-3793

令和3年を振り返り・・・・・

今年令和3年を振り返ると、温暖化の影響なのか年々酷くなる気象状況ではないでしょうか。今年は、年明けから降雪も少なく春の農作業も例年より早く始まったはずが季節外れの降雪又長雨と終わってみれば例年と同じか遅れていたようにも思いました。又7月から8月にかけての連日30度を超す猛暑になり、甜菜、馬鈴薯などほとんどの農作物が枯れてしまう今まで見たこともない畑の光景でした、その後雨も適度に降りある程度回復した中での一部地域での降雹で、甜菜などの葉が落ち農業施設にも甚大な被害がありました。その後も収穫時期の雨や季節外れの高温の影響なのか、馬鈴薯の低ライマン、甜菜の過去最低になるであろう糖分になり、酪農関係でも干ばつの影響で2番牧草や飼料用デントコーンに多大な影響があり、今年を振り返るといつも以上に天候に振り回された1年だったと思います。

今年の清里町農民連盟の活動は昨年からの新型コロナウイルスの影響で思うように行動ができず、本来ならば連盟執行委員による移動執行委員会での農水省へ直接出向き意見交換又国会議員へ農政への要望も中止となってしまいました。その後も地区連盟、道農連との会議もリモート会議となり思うような意見交換ができない状況でした。

町内対策でもでん粉工場、麦作関係との意見交換が中止となり例年行っている清里町長との連盟執行委員意見交換も先延ばしの状況です。その中、長期にわたり盟友からの要望が上がっていた耕地防風保安林整備事業が本格的に始動し今年モニタリング地区が整備されました。今後順次耕地防風林の整備が行われる予定です。またこの整備事業に関して農民連盟、清里町、農協と網走南部森林管理署と四者で協定書を交わす予定になっております。事業が円滑に進むよう、隣接耕作者の皆様におかれましてもご協力をお願いいたします。

今年度もあと3か月余りとなりました前年度同様今年もコロナの影響で思うように活動できませんでしたが清里町農民連盟はできるかぎりの運動はできたかと思います。

最後に、農政は今も昔も日々変わっています、これからも私たちは農民に不利益な政治政策には正面から向き合い理不尽な政策には物申す活動を行って行きます。

盟友の皆さまも何かございましたら連盟事務所はいつもオープンですので気兼ねなく来所してくださいお待ちしています。

桑島　義幸

網走南部森林管理署との現地検討会の開催

6月に終了した耕地防風保安林の伐採・管理の現状を11月17日に斜里農協、斜里農民同盟、清里農協、清里農民連盟の各代表者三名で現地検討会を行いました。今までは木が生い茂って日陰になり、GPSの電波障害、作物の生育不良、木の枝が張りだし農作業に支障が出る等様々な影響がありましたが、国有林であったため枝払いも出来ない状態でした。それが今回の事業により全ての問題が解決しました。来年も行われるということなので、今後とも経過観察を行っていきたいです。

石井　卓也



てん菜対策について

清里町農民連盟では、てん菜の育苗土確保や各種病害虫等の対策強化、てん菜振興資金の継続と効率的な活用等、清里町のてん菜振興についてホクレン・農協と協議、要請を行っています。

10/27 ホクレン中斜里製糖工場受入れ状況視察を実施

原料てん菜受渡において、生産者が不利とならないよう中間受入場や構内定置パイラーの受入状況調査を全執行委員対象で行うとともに、製糖工場側との意見交換を行い生産者側からの意見・要望を伝え円滑な原料輸送等を要請しています。直送期間での計画輸送の徹底（特に後期・庭先の原料凍結時期での運搬車両台数の調整）や輸送会社に対し積込み時の原料破損リスク対策の徹底指導や搬出時の取り付け道路の破損対策等を求めました。

近年話題になっているリーフシュレッダー（葉っぱ粉砕機）による茎葉処理原料については、現況と工場側の考え方や対応について説明を受けました。ホクレン中斜里工場に於いてもシュレッダーで処理された原料が搬入されており、特異な原料についてはサンプルによる実検を行い適正な査定値を決定していると説明がありました。茎葉処理があまりにも酷い原料については工場内で人の手によって切断処理を行っている。また、洗浄設備での葉の詰まり等で余分な手間や経費が掛かってくるので適正な機械のセッティングをお願いしたい。ホクレン中斜里工場としては茎葉処理に使われる機械の違いで査定の見かたを変えるという事はなく、あくまでも取引規定に準じた対応を行っていると話していました。

12/1 管内三製糖工場状況視察　地区連盟役員に同行（清里農連三役）

これまでも重要な課題に位置付けている品種や収穫機等の違いで糖業間での査定値の差が生じることのないよう、受渡規格の見直しや広域立会の復活を関係機関へ要請を行ってきた経過があります。この度、毎年行われている北見地区農民連盟役員による管内三製糖工場状況視察に私達の同行が可能となり、念願の他糖業の状況視察を行って来ました。

近年、他糖業では茎葉処理の際に使用されるリーフシュレッダーの使用率が高くなっていて、日甜では4割程度、北糖では7割から8割と、かなり普及が進んでいることがわかります。二糖業ともに共通するところでは、シュレッダーの使用初期の頃は機械のセッティングに苦労をした生産者が多かったといいます。茎葉が残り過ぎたり、切り過ぎで粉々になっていたそうです。あまりにも酷い原料については持ち帰りすることもあったそうですが、徹底した指導によって現在では生産者側も上手に機械を使うことが出来るようになり、原料の姿がきれいになったと話していました。しかしながら、ビートの切り過ぎ注意を過大解釈して葉を残し過ぎる生産者や新規でシュレッダーを使用する生産者に対しては指導の徹底を行っているとの事でした。

搬入されてくる原料を実際に見て、シュレッダーの使用にはそれなりのリスクがあり、それぞれの品種特性や移植、直播等の違いで処理後の状態に違いが出てくる可能性があることも理解しなければならないと感じました。今後、ホクレン糖区内でもシュレッダーの普及が進んでいくことが考えられる中で、ホクレン中斜里工場に対しては査定値等を含めた適切な対応を求めていく必要があると考えます。

今回の視察では一部の原料を見たに過ぎないところもあり、他糖業の現状を把握できたわけではありませんが、課題は少なくはないと感じました。今後の対策としては関係機関との情報の共有や更なる連携が必要になってくると思います。

編集後記

雪は積っていませんが年末が近づき盟友の皆さんもお忙しいことと思います。
私は、酪農家さんと仕事をすることが多いのですがその家に行くと牛たちが一斉に牛舎から出てきて右へ行くと右へ、左へ行くと左へ付いて来ます。いつも寝転んでるイメージを持ちがちですがとても活発です。年末から新年にかけてコロナや給食のストップなどで牛乳の消費が減り 廃棄の可能性が高まっています。小学生の頃、スケート少年団の時の温かい牛乳はごちそうで 今でも思い出します。年末は家族で温かい牛乳を飲みながら一年の疲れを癒やしませんか？

田邊